

クリーニングに出す時の注意！引き取る時の注意！

Q ダウンジャケットをドライクリーニングに出したら、縫い目にシミが出来てしまった。シミを落として欲しい。出来ない場合は弁償して欲しい。



A これは、クリーニングの際の乾燥が不十分なために、縫い目部分に沿って濡れたようなシミが出来る、際つき(キワツキ)と言われる現象です。ダウンジャケットの中綿部分が乾燥しにくいいため、洗濯後の脱水や脱液が不十分となりやすく、乾燥の際に縫い目に残された溶剤や、水分に含まれた汚れ成分などがじわじわと揮発し、シミの原因となります。事例の場合は、クリーニング店が適切な洗い方をしていれば防げた可能性がありました。洗い直しができるか、まずはクリーニング店と話し合しましょう。また、店側の責任によって生じたトラブルの補償は、「クリーニング事故賠償基準」があり、賠償の際の参考に利用されることもあります。しかし利用者が受け取ってから6か月を経過、又はクリーニング業者が受け取ってから1年を経過すると、支払い義務が解除されます。

洗濯物をドライクリーニングに出す時には、どのような汚れが付いているかなどをお店の人に説明をすることが大切です。ドライクリーニングは有機溶剤を使い、油性の汚れの場合は落ちやすく、汗ジミ等の水溶性の汚れは落ちにくい特徴があります。また、レーヨン、羊毛、絹などはドライクリーニングしたほうが変形は起こりにくいという利点があります。汚れの種類や繊維の種類を考えて洗濯方法を選ぶのが基本です。「衣類の取扱表示」を確認してください。(JIS規格による「衣類の取扱表示」は平成28年12月1日より新しくなりました。)引き取りの際も、お店の人と一緒に洗濯物の状態をチェックしましょう。不明な点は消費生活センターにお問い合わせください。

松伏町消費生活センターでは、消費生活相談を実施しています。

月～木曜日 午前10時～正午、午後1時～4時

視覚について

大人の視野は左右150度・上下120度程度ですが、子どもでは左右90度・上下70度程度であり、子どもが頭などをぶつけやすい原因の一つです。高齢者では上下方向、特に下方向の視野が狭くなります。それが、転びやすさの一因ともなっています。また、高齢者では老眼のほか、視力の低下、焦点調節力の低下があります。

色覚については、日本人の男性の場合、20人に1人が色覚に特性があるそうです。色覚特性のある人の見え方の一例として、赤が茶色に見える、緑が薄い茶色に見えるなどがあります。高齢者の場合は加齢により色を感じる細胞が弱くなるので、青と黒・濃い色どうしの組合せ・黄色と白・薄い色どうしの組合せは、同じような色に見えてしまいます。

また、日本の視覚障がい者のうち7割がロービジョン(low vision)だと言われています。ロービジョンは弱視とも呼ばれ、視機能が弱くメガネなどを使っても矯正できない状態や人のことで、その「見えにくさ」には個人差が大きいそうです。視力が全くない全盲とは異なりますが、法律により白杖を使うことが認められています。しかし、白杖は全盲の人が使う物という誤った思い込みから、筋違いの非難を受けることがあるそうです。

今月の「人権それは愛」は、年齢や障がいが見覚に与える影響の一例を挙げましたが、これは本人以外には分かりにくい、他の人からはまさに「見えにくい」ものです。私たちは、一見しておかしいと思うことや分からないことでも、正しい知識を持つとともに、相手の立場に立ち、想像力を働かせ、社会では様々な人たちが共に暮らしているという意識を持つことが求められています。